



日本遺産  
JAPAN HERITAGE

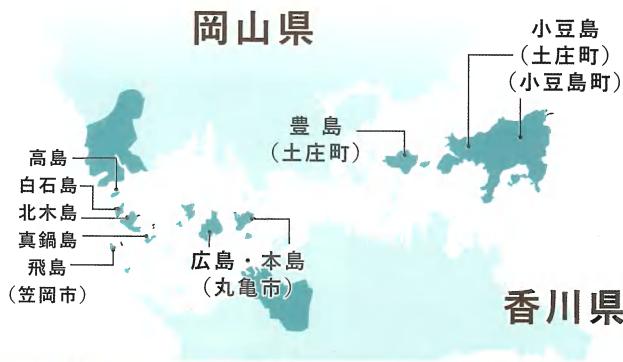
STONE ISLANDS

知ってる!?

# 悠久の時が流れる石の島

～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～

岡山県



香川県

岡山県と香川県の間に展開する「備讃諸島」の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきた。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれている。備讃諸島には巨石を切り、運び、石と共に生きてきた人たちの希有な文化が息づいている。



大坂城石垣



日本銀行本店本館

日本橋

東京駅丸ノ内本屋



大阪市中央公会堂

明治生命館

靖国神社石鳥居

01

日本の建築文化を支え続ける石

日本の近代化が進んだ明治後期から昭和初期にかけて、日本銀行本店本館をはじめ、明治生命館などの日本を代表する近代洋風建築が建てられたが、そこには瀬戸内海の島々、とりわけ備讃諸島で産まれた花崗岩が使われてきた。

一方で、我が国が世界に誇る石造建造物である、近世城郭の石垣。その代表が、大坂城の石垣である。大坂城は、徳川幕府が西国・北国の大名63藩64家を大動員して、元和6年(1620)から寛永6年(1629)の間に再建した。大名たちは競うように巨大な石を運び込み、壮大な石垣を築き上げた。その石垣にも、遠く離れた備讃諸島から運ばれてきた石材が大量に使われている。

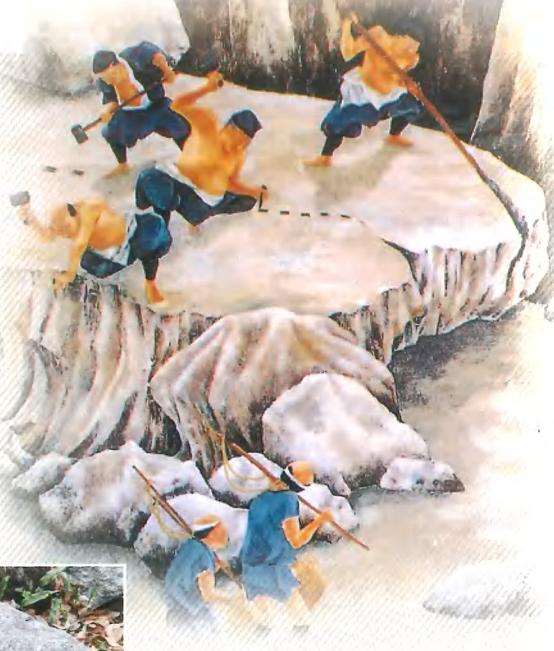
岡山県笠岡市

# 02 石切りの歴史

STONE ISLANDS

備讃諸島の島々には平地が少なく、山肌から海岸まで、至るところに巨石がむき出しどとなっている。このような特性を活かして、江戸時代以降、良質の花崗岩などが切り出され、城の石垣や建造物に使われるようになっていった。

その400年の歴史が凝縮されているのが、丁場(ちょうば)と呼ばれる石切場である。石に鉄製の矢(や)を打ち込み、割りとることを「切る」という。大きな石を切るために、石の目を読む高度な技術と、そのための道具が必要である。備讃諸島を巡ると、400年にわたる採石の技術の変遷を、肌で感じることができる。



大坂城石垣石丁場跡



天狗岩丁場

所在地：小豆島町岩谷  
「天狗岩」バス停すぐ。  
トイレ有。

大坂城残石資料館

道の駅「大坂城残石記念公園」内にあり。  
所在地：土庄町小海甲 909-1  
入館無料。9時～17時の営業。  
定休日は12月29日～1月3日。

◆福岡藩黒田家が開いた小豆島岩谷地区の丁場には1600個を超える石が残されており、400年前の採石技術を目の当たりにできる。

►明治25年(1892)の手作業の時代に始まり、機械化された現在も石切りを続ける北木島の丁場は、高さ100mの断崖となっている。切り出された北木石は東京駅丸ノ内本屋などの重要文化財に使われている。



石切りの溪谷展望台

所在地：笠岡市北木島町金風呂  
金風呂港より徒歩10分  
連絡先：0120-68-2120(鶴田石材株式会社)  
見学は申込みが必要。

※12～13時の間は予約なしで見学可能。(年末年始を除く)

入場料：大人1,000円、小人500円



北木石の丁場

# 03 石の産地を支えた海運

STONE ISLANDS

備讃瀬戸の島は、はげ山、岩場、砂浜など変化に富み、至るところに花崗岩が露出している。島の中で山と海が一体となりコンパクトにまとまっていることが、石切りと石の陸運、海運を容易ならしめた。

瀬戸内海の島々で、採石の発展をもたらした大きな要因は、海であった。島々は海によってつながっていた。海こそが、巨大な石を遠隔地まで運ぶために不可欠な「道」だったのである。

西日本における海上交通の大動脈でもあった瀬戸内海の島々には、海の「道」への入口となる港町が形成された。備讃諸島においても、街路が屈曲し、十字路を形成しない複雑な町割りを残した集落が見られる。



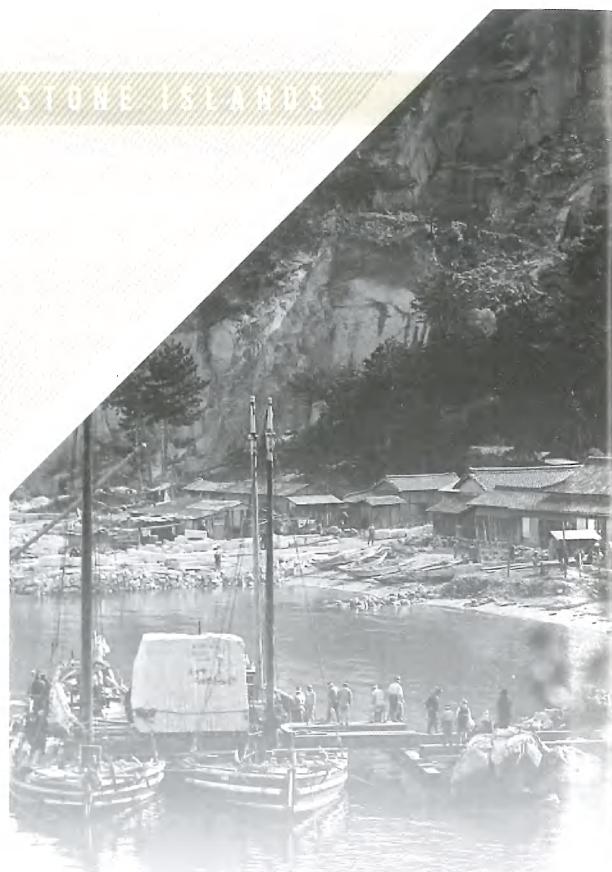
▲丁場から切り出した石を積み出した小さな港。大小の端材を巧みに組み上げた護岸が遺っており、「北木石」の原産地ならではの景観を見せてている。

所在地：笠岡市北木島町



▲江戸時代に廻船問屋として繁栄した面影を残す屋敷。まるで城のような石垣は、島の花崗岩「青木石」を高く積み上げている。

所在地：丸亀市広島町立石



◀本島にある重要伝統的建造物群保存地区。

中世には塩飽水軍、江戸時代には塩飽廻船の拠点として栄えた。山城のある丘陵に三方を囲まれつつ、狭い道路が複雑に食い違い、見通しがきかない防衛的な構造を示す一方、マッチョ通り（町通り）と呼ばれる主要道路に沿って町屋形式の家屋が建ち並ぶ集落が、海の民の経済力を物語っている。

所在地：丸亀市本島町笠島

笠島まち並保存センター

9時～16時営業。観覧料大人200円、小人100円

連絡先：0877-27-3828（月曜、年末年始、1～2月の平日休館）



「迷路のまち」土庄

▶路地が入り組んだ土庄の集落は「迷路のまち」として知られる。西光寺はその象徴的な存在で、境内から町を一望できる。町なかには採石奉行加藤清正ゆかりの屋敷跡も残る。

所在地：土庄町甲

土庄港より車で7分。



▼笠岡諸島の真鍋島では、中世真鍋水軍の拠点にふさわしく、山城のふもとに防衛的な町割りの集落が展開している。真鍋家住宅は、島の集落景観を代表する古民家である。

所在地：笠岡市真鍋島

真鍋島本浦港すぐ。

真鍋島の集落

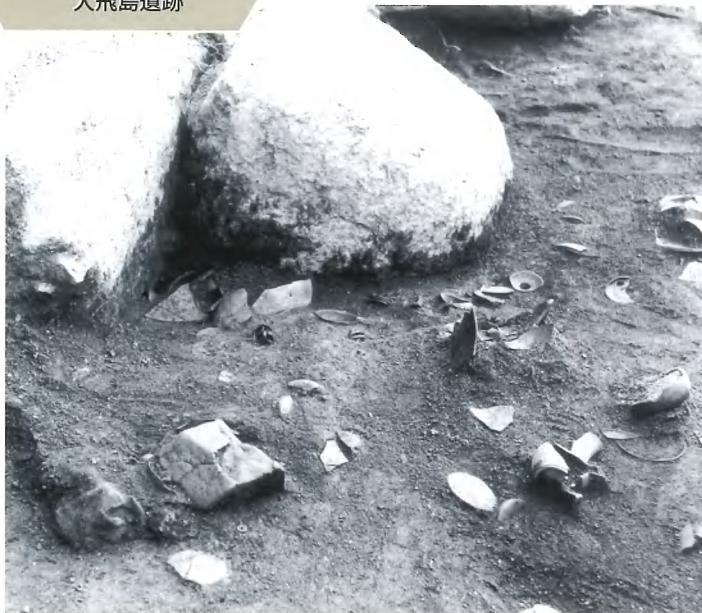


# 04 石と共に生きる 生活文化

備讃諸島の島民は太古の時代より、石とともに生きてきた。巨石は島民の精神文化と結びつき、崇拝と祈りの対象となってきた。また、岩肌をくり抜いた山岳靈場には、おかげにあやかろうとその地を訪れる人が後をたたない。

最盛期、島は石切りから加工、商い、出荷、海運まで石材産業が島内で完結した一大拠点として賑わった。島の石材産業は富を生み、嘗みは文化と娛樂を島に遺した。

おおびしまいせき  
大飛島遺跡



▲ 大飛島にはかつて、長さ300mともいわれた砂洲(砂嘴)があった。その付け根にある巨石を中心として、奈良・平安時代に航海の無事を祈る祭祀が行われた。発掘調査で数々の宝物が出土した。

所在地：笠岡市大飛島  
洲港より徒歩3分 旧飛島小学校グラウンド隅

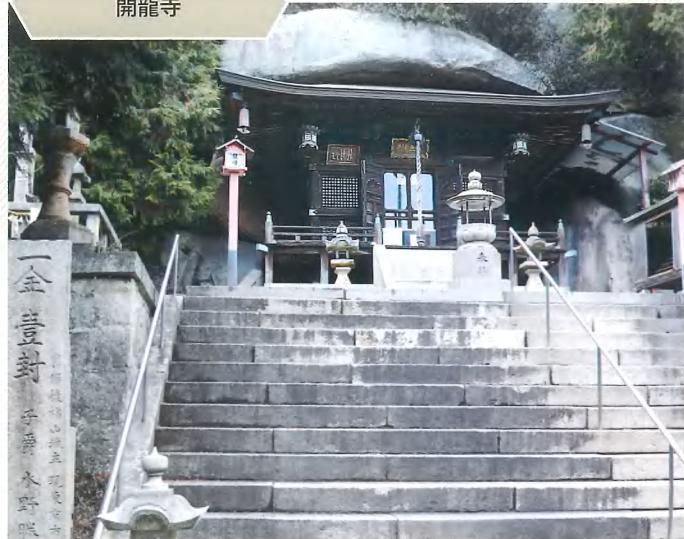
▼昭和20年代から42年（1967）頃まで営業し、石工たちに娯楽を提供していた旧映画館。現在は北木島の石文化に関する映像上映等に活用されている。

所在地：笠岡市北木島町 7887-52  
連絡先：0865-68-2898（北木西公民館）



甦った映画館「光劇場」

かいりゅうじ  
開龍寺



▲ 弘法山開龍寺は、大同元年（806）弘法大師空海上人が立ち寄って開山されたと伝わる。巨石の下に建つ大師堂は、弘法大師修行の靈場といわれ、神島八十八カ所の奥の院にもなっている。

所在地：笠岡市白石島  
白石島港より徒歩15分程度

高島（国指定名勝）



▲ 神武天皇の伝説が伝わる島。神ト山（かみうらやま）の頂上に展望台と、巨石を用いた「高島行宮遺跡碑」が立つ。

所在地：笠岡市高島  
高島港より山頂まで徒歩40分程度

石節（せきぶし）  
北木島石切唄（きたぎしまいしきりうた）

▼石節は小豆島で石切りの際に歌われていたという。また、石切唄は、北木島で受け継がれる作業歌。手作業で石を切っていた時代、石工たちが唄うことで作業効率を高めた。いずれも保存会により伝承されている。

伝承地：  
石節 土庄町／小豆島町（左）  
石切唄 笠岡市北木島町（右）



# 笠岡市 日本遺産構成文化財一覧



①高島



②開龍寺



③白石島



④北木石の丁場



⑤北木島の丁場湖



⑥北木島の石工用具



⑦千ノ浜の護岸景観



⑧北木島石切唄



⑨旧映画館「光劇場」



⑩真鍋家住宅



⑪大飛島遺跡

せとうち備讃諸島  
全部で45件の  
文化財のうち**11件**が  
笠岡市の文化財です。  
詳しくは、  
説明一覧をご覧ください。

# 笠岡市 日本遺産構成文化財 説明一覧

## 国指定名勝

① 高島

高島は古事記・日本書紀にいう神武天皇の「高島宮」であったとする伝説が古くから伝わる。「神ト山」の山頂に大正8年(1919)に建立された「高島行宮遺跡碑」、中腹に「真名井」と呼ばれる神秘的な井戸がある。

② 開龍寺

白石島の古刹。弘法大師伝説の残る大師堂は、巨石の下に建てられており、荘厳な雰囲気をかもし出す。巨石と信仰の融合を物語る建造物。

③ 白石島

白石島の山々には、「白石」の名のとおり白色の花崗岩が露出している。天然記念物「鎧岩」などの奇岩や、「びぐに岩」のように信仰の対象となり神が祭られた巨石も見られる。山頂の遊歩道を巡ると、様々な巨石・奇岩と瀬戸内海の眺望を堪能できる。

④ 北木石の  
丁場

北木島の小金風呂にある花崗岩「北木石」の採石場は、明治25年(1892)に開かれ、現在も採石が続いている。ここから切り出された石は、明治生命館、東京駅丸ノ内本屋などの重要文化財に使われている。良質の石を求めて地下深くへと掘り込んだ結果、天に向かってそそり立つ岩壁が誕生した。展望台から、その壮大な景色を堪能できる。

⑤ 北木島の  
丁場湖

千ノ浜地区でかつて採石していた丁場が操業停止し、そこに雨水が溜まって湖のような景観となった。採石の歴史を物語る産業遺産であると同時に、山水画のような景色を見せる。採石道具を手入れする「ふいご小屋」も遺り、近代期の石材産業のあり方を彷彿とさせる。

⑥ 北木島の  
石工用具

北木島では手作業で採石を行っていた明治時代から、戦後の機械化された時代に至るまでの採石・加工・鍛冶・運搬等に使われた石工道具199点が収集されている。北木中学校の北木石記念室に展示されている。

⑦ 千ノ浜の  
護岸景観

千ノ浜の海岸は採石の廃土石により埋め立てられ、小さな石の積み出し港としても利用された。採石で発生した端材を利用して護岸が築かれている。矢穴の残る大小の石を巧みに組み合わせる様は、原産地ならではの光景。

⑧ 北木島  
石切唄

北木島で受け継がれる作業歌。まだ手作業で石を切っていた時代、石工たちが山から石を切り出し、割るときに唄っていた。伝統文化として保存会が継承している。

⑨ 旧映画館  
「光劇場」

北木島が石材業の発展により活気にあふれていた頃の映画館。昭和20年代終わりから42年頃まで営業しており、石工たちに娯楽を提供した。当時の設備や映写機をそのまま残している。現在では北木島の石文化に関する映像上映等で活用されている。

⑩ 真鍋家  
住宅

かつて真鍋水軍の本拠地であった真鍋島の集落は、海の道を担った備讃諸島を代表する、歴史的な集落の一つ。十字路を形成せず、中世から続く防衛集落的な構造をよく残している。真鍋家住宅は真鍋鉄屋本家の住宅として、島の集落景観を代表する建物。

⑪ 大飛島  
遺跡

大飛島の砂洲の付け根にある巨石群は、奈良・平安時代に信仰の対象となり、都びとたちによって数々の宝物が捧げられた。遣唐使などの航海の無事を祈った祭祀跡といわれる。古代の巨石信仰を物語る遺跡。

## 知ってる!? 悠久の時が流れる石の島

～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～

<https://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/japan-heritage/>

岡山県笠岡市

[構成市町] 岡山県笠岡市、香川県丸亀市、土庄町、小豆島町

[連絡先] 笠岡市産業部 商工観光課 / 所在地 岡山県笠岡市中央町1-1 / 電話 0865-69-2147

